

ジェトロ・ホーチミン事務所
2023 年 2 月 9 日作成

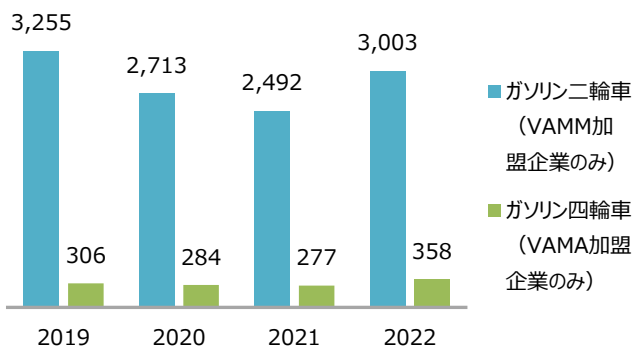
ベトナム EV 市場と日本の投資機会

1. ベトナムの EV 市場の動向、政府のビジョン

ベトナムは東南アジア及び世界で最も多くの二輪車が普及している国の 1 つである。新型コロナウイルス禍（以下、コロナ禍）の影響を大きく受けたものの、2021 年には全世界の二輪車約 4,777 万台¹のうち約 249 万台²（約 5%）を販売している。また、政府がグリーンエネルギーや環境に優しい製品を推進していることを受け、ガソリン車から電気自動車に乗り換える消費者が増え始めている。さらに、[MotorCyclesData](#) のレビュー³によると、2022 年 9 月のベトナムでの電動二輪車の販売台数は「L1⁴」が同年 1 月比 19.5%増加、「L3⁵」が同 35.1%増加するなど、中国に続く第 2 位の市場となっている。

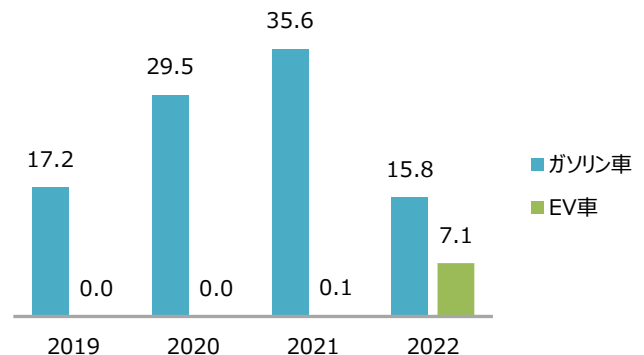
ベトナムのガソリン二輪車市場は VAMM（ベトナム二輪車製造業者協会）加盟の [Honda](#)（日本）、[Yamaha](#)（日本）、[Suzuki](#)（日本）、[Piaggio](#)（イタリア）、[SYM](#)（台湾）の 5 社の寡占にある。

ガソリン車販売台数（千台）



（出所）[VAMM](#)（ベトナム二輪車製造業者協会）、[VAMA](#)（ベトナム自動車協会）発表資料を基に作成

[Vinfast](#) の 4 輪車販売台数（千台）



（出所）[Vinfast](#)（ベトナム大手自動車メーカー）の発表資料に基づき作成

¹ [MarkLines](#)（日本の自動車産業調査会社）のレポート「[世界の二輪車の生産販売台数（中国、インド、ASEAN の概要）](#)」（2022 年）

² [VAMM](#)（ベトナム二輪車製造業者協会）のレポート「[2021 年の全体及び第 4 四半期の二輪車の販売](#)」（2022 年）

³ [MotorCyclesData](#)（グローバルなバイク市場調査チーム）のレビュー「[二輪車市場が急回復（+21.1%）、Honda が牽引](#)」（2022 年 12 月 20 日）

⁴ エンジンのシリンダーの容量が 50 cm³を超えず、推進手段が何であれ、最大設計速度が 50km/h を超えない二輪車（[UNECE 規格](#)に基づく）

⁵ エンジンのシリンダーの容量が 50 cm³を超える、または推進手段が何であれ、最大設計速度が 50km/h を超える二輪車（[UNECE 規格](#)に基づく）

二輪車の販売台数はコロナ禍（2020～2021 年）に落ち込んだが、その後徐々に回復し、2022 年の売上高は前年比約 120%増加となった。ベトナム最大のコングロマリット企業「[Vingroup](#)」の自動車メーカー「[Vinfast](#)」もコロナ禍に EV 市場に参入している。

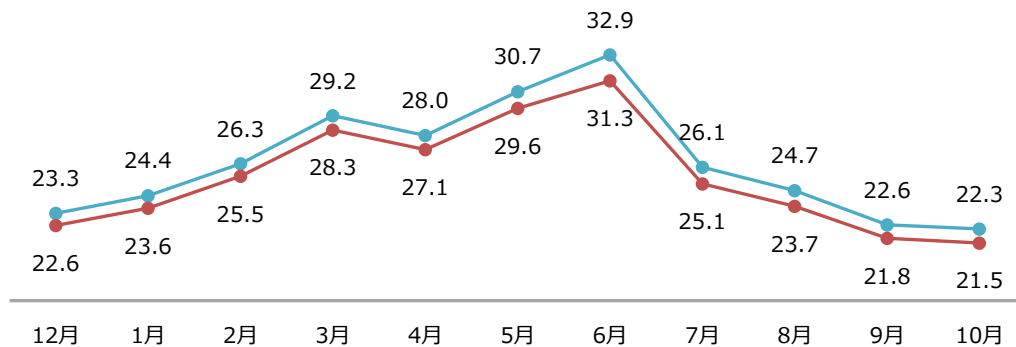
1.1 ベトナムでの EV の普及要因

[VinFast](#) などの国内メーカーの出現前は、ベトナムのガソリン車の多くは外国ブランドだった。

二輪車（ガソリン車）	四輪車（ガソリン車）
主に VAMM （二輪車製造業者協会）メンバー（ Honda 、 Yamaha 、 Suzuki 、 Piaggio 、 SYM ）	主に日本、欧州の有名ブランド（ Toyota 、 Subaru 、 Mercedes-Benz 、 Rolls Royce など）

一方、EV はより経済的でシンプルな生産工程の国内ブランドの存在感が強い。[Tai Nang Tre Development & Investment](#)⁶によると、「現在、ベトナムでは 100%外国製の部品を用いて組み立てられている」とのこと。EV は個人、法人を問わず多くのメリットがあることに加え、ガソリン価格の上昇⁷や環境意識の高まりにより顧客獲得が進んでいる。

ガソリン価格の変移（2021 年 12 月～2022 年 10 月：千 VND/ℓ）⁸



(出所) [PetroVietnam](#)（ベトナム国営石油会社）

⁶ [Tai Nang Tre Development & Investment](#)（Thai Binh 省の大手 EV ディストリビューター）の Nguyen Van Toan 氏（General Manager）へのインタビュー（2022 年 12 月 7 日）の結果

⁷ 一般的に電気自動車はガソリン車より燃料価格が安い

⁸ 各月 22 日時点の価格を抽出

ガソリン価格と電気料金の比較 (2022 年 10 月時点)

	バイク		自動車 (4 人乗り)	
	ガソリン	電気	ガソリン	電気
平均 燃費	2.5 ℓ /100km	3kWh/80km	7.8 ℓ /100km	13.4kWh/100km
価格	22,340VND/ ℓ	2,927VND/kWh	22,340VND/ ℓ	2,927VND/kWh
平均 価格 /km	558.5VND	109.8VND	1,742VND	392.2VND

資料： [PetroVietnam](#) (ベトナム国営石油会社)、 [Vietnam Electricity](#) (ベトナム国営電力公社)

1.2 ベトナムでの EV の消費動向

特殊車両 (ゴルフカート、クラブカート、フォークリフトなど) を除けば、ガソリンエンジンから EV に置き換えられるのは電気自動車、電動バイク、電動自転車の 3 つが考えられる。[Tai Nang Tre Development & Investment](#)⁹ によると、ベトナムの EV 市場は民間企業を中心に近年急速に発展しているとのこと。電動自転車については地域や車種により異なるが、消費者としては高校生 (16~18 歳) が最も多い。年齢制限が理由で電動自転車を使用していた人は、18 歳になるとガソリンバイクに乗り換えるのが一般的である。

高校生が 電動自転 車を選択 する理由	- 道路交法「No. 23/2008/QH12 (2008 年 11 月 13 日発効)」により、18 歳以上でなければ排気量 50cc 以上のバイクを運転できないため、通学手段として電動自転車を選択する学生が増えている - 同じ走行速度の場合の価格が安い。Tai Nang Tre Development & Investment によると、電動自転車の平均価格は 1 台当たり 1,000 万~1,300 万 VND と下位グレードのガソリンバイク 1 台の約 55% 相当である¹⁰ - 最近の電動自転車のデザインは、Piaggio (イタリア) の「Vespa (スクーター)」などのオシャレな製品が学生の関心を集めている
------------------------------	--

電動自転車は「ガソリンバイクの代替」「環境への配慮」の 2 つの目的で使用されてい

⁹ [Tai Nang Tre Development & Investment](#) (Thai Binh 省の大手 EV ディストリビューター) の Nguyen Van Toan 氏 (General Manager)、Nguyen Thi Thu Hang 氏 (CEO & Co-founder) へのインタビュー (2022 年 12 月 30 日) の結果

¹⁰ [Digital Media](#) (自動車業界に関するメディア会社) のレビュー「[Honda 正規販売店での 2023 年 2 月のバイクの価格表](#)」(2023 年 1 月 30 日)

る。共通するのは継続的に長距離を移動する必要のない消費者が中心であるが、[Wiibike](#)（電動自転車メーカー）¹¹によると、グリーンエネルギーへの移行や新しいライフスタイルの確立を目的に電動自転車を利用するのは高所得層に限られ、具体的にはスポーツ愛好家、女性実業家、主婦（30～40 代）などの通勤とエクササイズを両立させたい人となっている。一方、電動バイクや電気自動車については、温室効果ガス排出量の削減や環境保護などの目的を除けば、ガソリン車と電気自動車の顧客層を明確に分けるような大きな違いはない。

1.3 ベトナム政府の方向性、ビジョン

特に中部地域で自然災害の被害を受けやすいベトナムは、温室効果ガスの排出量を徐々に削減し、2050 年までに実質ゼロ（カーボンニュートラル）を達成する計画とともに気候変動に対する国際的な取り組みに力を入れている。また、ベトナム交通運輸省（[MOT](#)）は「[Decision No. 876/QD-TTg](#)（2022 年 7 月 22 日）」を発行し、グリーンエネルギーへの移行、輸送による二酸化炭素とメタンの排出の緩和のための行動計画（ロードマップを含む）を推進している。

2020～ 2030 年	- EV の製造、組立、輸入を推進すること - 全ての公道用自動車に E5 ガソリン¹²の使用を促進すること - 法人と個人の両方に対応する EV 充電インフラを整備すること - 公共交通機関のグリーンエネルギーへの移行を促進すること
2031～ 2050 年	2040 年までに化石燃料を使用する自動車、バイク、モペットの国内向けの製造、組立、輸入を段階的に廃止すること 2050 年までに全ての車両にグリーンエネルギーを使用し、バス停や休憩所のグリーン規格を満たすこと。化石燃料を使用する全てのマテハン機器は電気とグリーンエネルギーに移行すること - 充電インフラは法人と個人の両方の需要を満たす

さらに、ベトナム商工省（[MOIT](#)）もこの計画の推進を後押ししている。具体的には、2025 年から 2040 年にかけてガソリンや石油を燃料とする自動車、バイク、モペットの製造、組立、輸入を全て停止する。国内メーカーの電気自動車やハイブリッド車は輸入部品に対する優遇関税を適用可能とする。個別の事例としては、[Tri Nam Group](#)（ソフトウェア会社）は 2023 年から地元当局の承認のもとハノイ市で EV ステーションを含む公共自転車整備事業を開始し、同社は 94 カ所の駐輪場に 500 台の電動自転車を提供していく¹³。

¹¹ [Wiibike](#)（電動自転車メーカー）の Nguyen Thi Thu Hang 氏（CEO & Co-founder）へのインタビュー（2022 年 12 月 31 日）の結果

¹² 2022 年時点のガソリン車用のガソリンは 3 種類：RON92、RON95、E5

¹³ [Vietnamnet](#)（情報通信省傘下のオンライン新聞）の記事「[ハノイ市の 6 地区で公共自転車サービスを試験運用中](#)」（2023 年 1 月 8 日）

2. ベトナムの EV 関連の主要メーカー、流通構造

2.1 ベトナムの主要な EV メーカー

ベトナムの EV 市場には内資、外資両方のメーカーが混在する。

ブランド名	EV 製品	EV 拠点	EV 流通	特徴
Vinfast (ベトナム)	- 車 - バイク	- 本社：Ha Noi - 工場：米国、Hai Phong (2023 年～)	- ショールーム - 提携店舗 - EC サイト	- 市場最大の主要メーカー - デザイン：Pininfarina、Torino Design (伊)、バッテリー：ProLogium (台)、バッテリーセル：Gotion (中)、AI 技術：Cerence (米) など
DatBike (ベトナム)	バイク	- 本社：Da Nang - 工場：Binh Duong	- ショールーム - 提携店舗 - EC サイト	- バイクの主要製品は「Weaver 200」のみ - 完全ベトナム製 - ガソリン車と同じ速度で走行可能な電動バイクブランドとしてベトナム交通省 (MOT) から認定
PEGA (ベトナム)	- バイク - 自転車	- 本社：Ha Noi - 工場：Bac Giang	- ショールーム - 提携店舗 - EC サイト	- ベトナム初の電動バイクブランド Yamaha、Honda と提携し、Bosch (ドイツ) の電動バイク向けエンジンの生産体制を現地化 (ローカライズ率最大 85%)
Michi (ベトナム)	バイク	- 本社：Ha Noi - 工場：Hung Yen	- ショールーム - 提携店舗 - EC サイト	- 元々、Yamaha、Honda などのディストリビューター - 電動自転車の部品交換の需要拡大により、徐々に電動自転車の製造に移行
Anbico (ベトナム)	バイク	- 本社：Vinh Phuc - 工場：Vinh Phuc	- 提携店舗 - EC サイト	- 提携店舗で全ての専用交換部品を購入可能 - ライセンス登録時の混乱を避けるべく透明性のある事務処理と法的手続きを行う
Evgo (ベトナム)	バイク (折り畳み式)	- 本社：Bac Ninh - 工場：Bac Ninh	- オフィシャルショップ - EC サイト	Son Ha Group (ステンレス製貯水タンク、配管の多国籍企業) の EV ブランド - エンジン：Bosch (独)、デザイン：Piaggio (伊)
Homesheel (ベトナム)	- 自転車 - スクーター	- 本社：Ho Chi Minh - 工場：Ho Chi Minh	- ショールーム (本社) - 提携店舗 - EC サイト	- ベトナム初の折り畳み式電動自転車ブランド - グリーンエネルギーを利用した二輪モビリティソリューションのリーディングカンパニーを目指している
DK Bike (ベトナム)	- 車 - バイク - 自転車	- 本社：Lang Son - 工場：Lang Son	- オフィシャルショップ - 提携店舗 - EC サイト	- 元々、日本車のベトナムメーカー - EV のトップブランドを目指し、徐々に EV 製造にシフト

				電気自動車の主要製品はゴルフカート、クラブカート (VinFast とは異なる)
JVCEco (ベトナム)	- バイク - 自転車	- 本社：Hung Yen - 工場：Hung Yen	- 提携店舗 - EC サイト	- 日本規格に基づく国産技術をローカライズ Piaggio (伊) の「Vespa (スクーター)」に基づくデザイン
Yamaha (日本)	- 自転車 - バイク	- 本社：Ha Noi - 工場：Ha Noi	- 自社店舗 - 提携店舗 - EC サイト	Yamaha 初の海外 EV 工場 (アジア、欧州市場向け) - 電動スクーター「NEO'S」(着脱式バッテリー搭載の出力 2.5kW クラス) がグリーンエネルギー車における基幹製品に位置付けられている
Honda (日本)	- 自転車 - バイク	- 本社：Vinh Phuc - 工場：Vinh Phuc、Ha Nam	- 自社店舗 - 提携店舗 - EC サイト	Yamaha に続き、ベトナムの EV 市場に参入 - ベトナム市場の EV は全てアジアの海外工場から輸入
Dibao (中国)	バイク	- 本社：Ho Chi Minh - 工場：Thai Binh	- 提携店舗 - EC サイト	- Tan Thanh Trading が製造、販売の独占パートナー - 安価、省燃費、多様なデザインのため、若年層に人気
Aima (中国)	- 自転車 - バイク	- 本社：なし - 工場：なし	- 提携店舗 - EC サイト	- メインターゲットは学生 (日本ブランドと比較して安価、省燃費、長時間の移動が可能であることが評価されている) - ベトナム市場の EV は全て中国工場から輸入
Yadea (香港)	- 自転車 - バイク	- 本社：Ho Chi Minh - 工場：Bac Giang	- 提携店舗 - EC サイト	- 世界トップクラスの EV メーカー VinFast、PEGA などの強力なライバルと目される「G5 Model」の発表会に試乗会を実施
Piaggio (イタリア)	バイク	- 本社：Ho Chi Minh - 工場：Vinh Phuc	- オフィシャルショップ - 提携店舗 - EC サイト	- ベトナム市場の EV はほとんど台湾工場から輸入 - メインターゲットは女性 (エレガントなデザイン、広い収納スペース、低車高であることが評価されている)

[Vinfast](#) は電気自動車の製造に十分なリソースと設備を有する唯一の国内メーカーである。そのため、電気自動車の購入を検討している消費者にとって最も有力な選択肢の 1 つである。同社の自動車事業レポート¹⁴によると、2021 年 10 月に発売されたベトナム市場初の国産電気自動車「[VF e34](#)」は 2022 年の最初の 8 カ月間で約 2,200 台を販

¹⁴ [VinFast](#) (ベトナムの自動車、バイクメーカー) の Phan Quoc Linh 氏 (Media Specialist) のレポート「[2022 年 8 月の自動車販売実績を発表](#)」(2022 年 9 月 12 日)

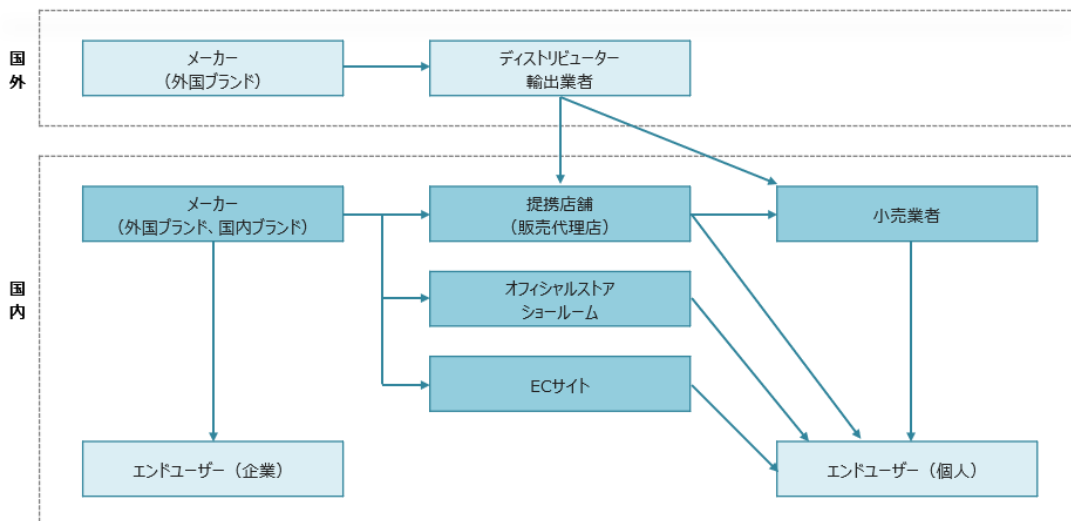
売している。

スマートシティにも充電ステーションが設置され始めている。充電プロセスも便利になり、消費者は徐々に電気自動車に切り替えるようになってきている。ベトナムでは [Vinfast](#)、[Hyundai](#)、[Porsche](#)、[Audi](#) などが充電ステーションによるサービスを提供している。2022 年 7 月には [Vinfast](#) と [PVOil](#) がハイフォン市カットハイ地区のガソリンスタンドで初の EV 充電ステーションを開設している¹⁵。一方、これらのプレイヤーは充電ステーションのネットワーク構築の過程（独自の場所を提案し、建設の交渉を行うなど）で多くの困難に直面している。効率的な充電ネットワーク構築には地方当局による明確な計画が必要となる。

2.2 ベトナムの EV 関連の流通構造、商流

ベトナムの一般消費者は様々なチャネルから EV を購入することができる。

EV の流通構造



（出所）[Wiibike](#)、[Tai Nang Tre Development & Investment](#) へのインタビュー¹⁶に基づき作成

EV 関連の部品については、ベトナムの EV メーカーは主に中国などから輸入し、工場を組み立てている。また、ほとんどのメーカーは部品交換による保守、保証サービ

¹⁵ ベトナム商工省のポータルニュース「[Vinfast がガソリンスタンドに初の電気自動車充電ステーションを開設](#)」（2022 年 7 月 4 日）

¹⁶ [Wiibike](#)（電動自転車メーカー）の Nguyen Thi Thu Hang 氏（CEO & Co-founder）へのインタビュー（2022 年 12 月 31 日）の結果、[Tai Nang Tre Development & Investment](#)（Thai Binh 省の大手 EV ディストリビューター）の Nguyen Van Toan 氏（General Manager）、Nguyen Thi Thu Hang 氏（CEO & Co-founder）へのインタビュー（2022 年 12 月 30 日）の結果

スを提供している。「[No. 125/2017/ND-CP](#)¹⁷」により、自動車部品の輸入関税は 0% となっており、電気自動車製造に向けた部品の輸入が容易である。さらに、[Metric](#) のレポートによると、2021 年 11 月から 2022 年 10 月までの EC プラットフォーム ([Shopee](#)、[Tiki](#)、[Lazada](#) など) におけるリチウムイオン市場は前期比 1.9%増加の約 9.8 億 VND に達している¹⁸。

3. ベトナムの EV 関連規制の見直し

3.1 EV の輸入に関する規制¹⁹

ほとんどの EV は通常の方法で輸入できる。

電動バイク	「No. 37/2017/QĐ-TTg²⁰」により、輸入前に品質検査を通過する必要がなくなった - ただし、「No. 04/2014/TT-BCT²¹」により、中古バイク（ガソリン、EV 両方）の輸入は禁止されている
電気自動車など	「No. 03/2006/TTLT-BTM-BGTVT-BTC-BCA²²」により、製造日からベトナムの港湾に到着するまでの期間が 5 年以内の場合は中古車（電気自動車を含む）を輸入できる。ただし、右ハンドル車、中古救急車の輸入は禁止されている

3.2 EV の輸入に関する関税²³

ASEAN と日本からの輸入品はベトナムの優遇税率が適用される。

電気自動車など（特殊車両 ²⁴ を含む）	- ASEAN から輸入する場合：ASEAN 物品貿易協定 (ATIGA)²⁵の「Form D」により、ASEAN での現地化率が 40%以上の車両は 0% (2018～2022 年) - 日本から輸入する場合：日 ASEAN 包括的経済連携協定
---------------------------------	---

¹⁷ 輸出入関税の税率に関する政令「[No. 122/2016/ND-CP](#) (2016 年 9 月 1 日)」の修正「[No. 125/2017/ND-CP](#) (2017 年 11 月 16 日発行)」

¹⁸ [Metric](#) (EC 向けデータプラットフォーム会社) のレポート「[EC プラットフォームでのリチウムイオン市場](#)」(2022 年 11 月)

¹⁹ EV 関連の部品、設備については HS コードに基づきガソリン車と同じ規則が適用される

²⁰ 品質検査の対象となる商品のリストに関する首相決定「[No. 50/2006/QĐ-TTg](#) (2006 年 3 月 7 日発行)」の廃止に関する首相決定「[No. 37/2017/QĐ-TTg](#) (2017 年 8 月 17 日発行)」

²¹ 国際的な商品の売買、加工、輸送に関する政令「[No. 187/2013/ND-CP](#) (2013 年 11 月 20 日発行)」に関する施行細則「[No. 04/2014/TT-BCT](#) (2014 年 1 月 27 日発行)」

²² 国際的な商品の売買、加工、輸送に関する施行細則「[No.12/2006/ND-CP](#) (2006 年 1 月 23 日発行)」に基づき、座席数 16 未満の中古自動車の輸入に関するガイダンス「[No. 03/2006/TTLT-BTM-BGTVT-BTC-BCA](#) (2006 年 3 月 31 日発行)」

²³ EV 関連の部品、設備については HS コードに基づきガソリン車と同じ規則が適用される

²⁴ ゴルフカート、クラブカート、フォークリフトなど

²⁵ 2018 年から 2022 年までの ASEAN 物品貿易協定の実施のためのベトナムの特別優遇輸入関税に関する政令「[No. 156/2017/ND-CP](#) (2017 年 12 月 27 日発行)」

	(AJCEP)²⁶の対象外のため、1 台当たり 56～74% (2018～2023 年) その他の課税：特別消費税、付加価値税 (VAT)、登録税など
電動バイク、 電動自転車	- ASEAN から輸入する場合：ASEAN 物品貿易協定 (ATIGA) の「Form D」により、1 台当たり 0% - 日本から輸入する場合：日 ASEAN 包括的経済連携協定 (AJCEP) により、1 台当たり 90% (2018～2023 年)

ベトナム政府によるグリーンエネルギーの推進に加えて、輸送インフラと EV 充電ステーションが広く利用できる環境が整うと、今後数年間で電気自動車を選択する人が増えると予測されている。また、都市部在住の中所得層が増加するなかで、グリーンエネルギー車はスマートシティの全ての基準を満たし、環境汚染の低減に資することから EV に切り替える人が増えている。さらに、[VinFast](#) の EV 完全移行と EV 部門の多様化により、ベトナム市場は外国からの投資の可能性が今後も拡大していくと考えられる。

本資料の位置付け

ベトナムの EV 分野に関して、潜在的な需要があるのではと考え、第 1 章「EV 市場の動向、政府のビジョン」、第 2 章「EV 関連の主要メーカー、流通構造」、第 3 章「EV 関連規制の見直し」の流れで現在のベトナムの EV 分野の投資環境の概要を簡易的に把握できるよう、デスクリサーチのみでなく EV のバイヤー候補への需要に関するインタビューも実施しながら情報を取りまとめた。一点、ベトナムの自動車大手 [Vinfast](#) にインタビューには応じてもらえなかったことを申し添える。ベトナムの EV 業界を把握するには大手 [Vinfast](#) から情報を得るのが最も効果的だと思われるが、市場を独占している状況もあり、インタビューは実現しなかった。本資料が特に EV 関連を取り扱う日本企業のベトナム展開に関する情報収集の入口として活用されることを想定している。そのため、詳細な情報収集については別途ジェトロの関連資料を参照いただく、または関連サービスを活用いただきたい。

以上

○作成：ジェトロ・ホーチミン事務所

○執筆：中小企業海外展開現地支援プラットフォーム・コーディネーター 鉦打 康平

²⁶ 2018 年から 2022 年までの日 ASEAN 包括的経済連携協定の実施のためのベトナムの特別優遇輸入関税のスケジュール「[No.160/2017/ND-CP](#) (2017 年 12 月 27 日発行)」

【報告書の利用についての注意・免責事項】

本レポートは、日本貿易振興機構（ジェトロ）ホーチミン事務所が B&Company Vietnam Ltd. に作成委託し、2023 年 1 月に入手した情報に基づき作成したものです。掲載した情報は作成委託先の判断によるものですが、一般的な情報・解釈がこのとおりであることを保証するものではありません。本ミニレポートはあくまでも参考情報の提供を目的としており、提供した情報の正確性、完全性、目的適合性、最新性及びサービスの有用性の確認は、申込者の責任と判断で行うものとし、ジェトロは一切の責任を負いません。これは、たとえジェトロおよび B&Company Vietnam Ltd. が係る損害の可能性を知らされていても同様とします。

【レポートの内容に関するお問い合わせ先】

ジェトロ・ビジネス展開支援課 BDA@jetro.go.jp

(2023 年 4 月 1 日以降はジェトロ・海外展開支援部戦略企画課個別支援班 ODA@jetro.go.jp)

◆「海外発トレンドレポート」読後アンケートにご協力ください◆

本レポートは皆様の海外ビジネスにお役に立ちましたでしょうか？

今後の参考のため、役立ち度アンケートにご協力頂けましたら幸いです。

(所要時間：約1分)

